

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2007～2008年度 国際ロータリー ウィルフレッドJ.ウィルキンソン会長テーマ

ROTARY SHARES ロータリーは分かちあいの心

創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 橋本 恭典  
幹事 鈴木 文三郎  
会報委員長 酒部 正博

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2565回例会プログラム

[当年度 = 7回目; 当月 = 4週目]

2007年(平成19年) 8月27日(月)

〈司会: プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱  
…… 日も風も星も  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事
- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告  
8. 幹事報告  
9. 出席報告  
10. 委員会報告  
11. ニコニコボックス報告  
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(9/3)……クラブフォーラム(新世代委員会)  
卓話「キャリア・スタート・ウィークについて」  
講師 刈谷市教育委員会学校教育課  
指導主事 澤田 佳予子 様  
(紹介者 加藤 真治 会員)  
(9/10)……職場例会(職業奉仕委員会)  
12:30～オイスカ中部日本研修センター
- 13:00 13. 本日のプログラム  
卓話「帰国報告」  
講師 青少年交換学生 天野 郁子 さん  
(紹介者 嶋津 孝久 会員)
14. 謝辞  
15. 点鐘……〈会長〉  
16. 閉会宣言  
13:30 17. 散会

## ビ ジ タ ー

四宮 和仁 様 (知立 RC)

## 出 席

会員総数 93名 出席免除 21名  
出席義務 72名 欠席 6名 出席率 91.76%  
前々回(8/6)の修正出席率 100%

## 会 長 報 告

- 1) 8月22日に刈谷市共同募金委員会評議員会に出席して参りました。
- 2) 刈谷市社会福祉協議会から理事の委嘱状が届いています。

## 幹 事 報 告

- 1) 本日例会終了後、事務局にて第3回理事会を開催いたします。ご関係の皆様はよろしくお願い致します。
- 2) ガバナー訪問時の記念写真が出来上がりました。メールボックスに入れてありますのでお持ち帰り下さい。
- 3) 9月のロータリーレートは、昨今の円高を反映して、1ドル=116円となります。この機会に是非年次寄附をお願い致します。

## 会 長 あ い さ つ

橋本 恭典



仕事の関係で4-5年前までは、シンガポール、マレーシア、インドネシアにはよく通っておりました。商工業関係のトップの方々は中国系が多く、私が関係する人々はほとんど華僑です。一口に華僑と言っても出身地によって身体的、思想的に大きな違いがあります。南方系の方は概ねずんぐりむっくりで丸顔、鼻が低く、計算には非常に細かい、北方系の

人は大柄で鼻筋が長くスタイルがよく、華僑のなかではかっこいい勇敢な人が多いようです。今日は北方系のなかで、お客様の客に家と書いて「客家」(はっか)についてお話したいと存じます。仕事上のお付き合いで一杯飲みに行ったり、ゴルフをしたりと、友人関係にある華僑はそれほど多くいるわけではありませんが、そういう付き合いの中で客家という単語を初めて知りました。

ある一人が自分は客家であることを、威張るわけでもなく、いじけて言うのでもなく、極普通に言われましたが、あとで少し勉強したところ、それまでまったく知らなかったことに大変恥ずかしい思いをしました。

客家人は「客の人々」ということで「土着でなく、他所からやってきた人々」という意味をもっています。もともとは北方の漢民族が戦乱を避けて、集団で南下して住むわけですが、南方中国も大穀倉地帯で人口も多く、やむなく未開耕地や山間地に入り、あまり一般中国人に溶け込まず、独特な文化や言語を現代に残し、そういうところで客家の精神が形作られたようです。

過去2千年の間に大きくは6回の移動があり4回目である南宋末期、モンゴルとの戦争で追われた移動で広東、福建に移り住んだのが現在の中心的居住地域となりました。客家人は450万人いて、韓国並の人口で外国にはそのうち500万人が進出しています。

わたしの数少ない客家人の知人もチャレンジ精神の旺盛なこと、勤勉で謙虚それに勇敢でアルコールにも強い人が多く、企業経営者として成功した人たちです。中にはマレーシアやインドネシアの国会議員さんもいます。成功者の子弟は客家の教育熱心さもあってほとんどは英国を始めヨーロッパ、アメリカに留学させ、そちらの市民権を持っている人も多くいます。

一般の華僑は製造業よりは、小売、流通業、飲食店経営が多いのですが、客家人は、軍人、政治家、教師、会計士などが多く、客家語が標準語である北京語に近く又教育熱心なことから、科学の合格率も他の漢民族の8倍も合格していたそうです。

客家の精神をまとめると

- 1) 強い団結心
- 2) 進取の精神
- 3) 文化伝統保持への自信
- 4) 教育熱心
- 5) 政治への関心の高さ
- 6) 女性の勤勉性

どのような人々が客家かと言えば、シンガポールは客家人が造ったので当然リークアンユー、ゴーチョクトン、リーシェンロン、の首相たち、台湾の李登輝、孫文や奥さんの宋慶齡、妹の宋美齡(蒋介石夫人)、鄧小平や朱徳の政治家たち、タイガーバームの胡文虎、タイのバンコク銀行グループ、インドネシアのサリム財閥の林紹良を始めとする経済人。

客家の話は奥が深く、ばけの皮のはがれないうち本日はこれまでとさせていただきます。

### 第3回理事会

I 会長挨拶 (会長)

II 議題

1. 9・10月のプログラム(案)について  
(クラブ奉仕委員長)  
(プログラム委員長)
2. 第55回全国選抜大学・実業団相撲刈谷大会協賛について  
(社会奉仕委員長)
3. ひかりっこクラブ  
「筆子その愛-天使のピアノ-」上映会と山田監督講演会に対する後援名義について  
(社会奉仕委員長)
4. 刈谷市スカウト育成連絡協議会活動助成金について  
(新世代委員長)
5. 出席規定適用免除の申請について (幹事)
6. 地区大会について (幹事)
7. パソコン・プリンターの購入について (幹事)
8. その他

### 卓話

#### 「帰国報告」

青少年交換学生 天野 郁子



皆さんこんにちは。

今日はスイスでの留学体験をお話しさせていただきます。スイスはヨーロッパの中心に位置し、面積4.1万平方キロ、九州よりやや大きいくらいで、人口は約746万人、日本の16分の1ととても小さい国です。ご

存知のように永世中立国です。ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4カ国語が話されています。国は26のカントンという州に別れています。首都はベルンで、国連などが置かれているジュネーブ、観光名所のルツェルン、サンモリッツも有名です。

私はスイスで一番大きな都市 Zurich (チューリッヒ)で1年間生活しました。人口は40万人で、商工業の中心都市です。昨年8月6日、途中のドバイの空港で迷子になりそうになりながらも、無事この町に到着しました。

次にホストファミリーを紹介します。最初のホストはベルリさんという家族で、お父さんは大学の心理学の先生です。お母さんはスーパーのポイント集めを趣味にしていました。子供が4人いて、24歳の幼稚園の先生の女の子、23歳の大学生、オーストラリアに留学していた19歳の男の子、一番下が15歳の中学生。この一家はとても明るく温かい家族で、みんなでいつも歌を歌ったり楽器の演奏をしていました。私にはサルサやワルツを教えてくださいました。また地域との繋がりがとても強い家族で、お爺ちゃんは元市長でした。

私が暇な時には「山に行こう」とアクティブに誘ってくれ、自然の素晴らしさを教えてくださいました。この家

にはクリスマス過ぎまで約5ヶ月一緒に生活しましたが、私がスイスの生活にすんなり溶け込めたのもこの家族のおかげだと思っています。

また、とてもユーモアに溢れる家族で、クリスマスの前の日に「プレゼント何が欲しい？」と聞かれ、私は何でもよかったので「ブラッド・ピットと黄色のフェラーリが欲しい」と冗談で言ったら、実際にブラッド・ピットのカレンダーとおもちゃの黄色いフェラーリをくれました。あの時はとても嬉しかったです。

第2のホストファミリーは、チューリッヒにある唯一の山であるユートルベルグまで15分の所に住むツクラゲンさん一家でした。お父さんはお医者さんで、いつも冗談ばかり言う楽しい人でした。お母さんはクロディンという名前と同じくお医者さんです。クロディンはフランス語の地域から来たのでフランス語もペラペラです。子供が2人いて今年20才になる娘のイザベルは保育士で、いつも週末には町へ行こうと誘ってくれるとても良いお姉ちゃんでした。もう一人23才のエマヌエルというお兄ちゃんがありますが、その時はちょうど軍隊に行っていました。

ここで、スイスの軍隊についてご紹介したいと思います。スイスの軍隊は、世界で最も近代的で高度な武装を誇っています。また政府が食料を数年分貯蔵していたり、学校にも緊急避難用のシェルターが装備されており、国民保護の対策も充分とられています。

成人の男性には18才～60才の間に、1年間の兵役が義務づけられています。

この家にはクロディンのお母さんも同居しており、その90歳を超えているおばあちゃんは一人で食事、洗濯、掃除をきりもりできる素敵なおばあちゃんでした。この家族とも本当に有意義に過しましたが、ただ一つ大変だったのは交通の便が悪いことで、バスは1時間に2本、電車は30分に1本で、もし遅刻したら大変で厳しい環境でした。この家には5月頃まで暮らしていました。

最後のホストファミリーは、元看護婦のフレンというおばあちゃんでした。家にはヤスミンという看護婦さんも一緒に住んでいました。フレンの家はとても古く電話もパソコンもなくテレビも白黒でしたが、問題なく住むことができました。ただ家が山の上にあるので毎日の登り降りが大変でした。また、雨の日になると大量のかたつむりが発生してとても嫌でした。スイスのかたつむりは大きくて赤い色をしていて気持ち悪いんです。

フレンは料理がとても上手で、私にいつも古い物の良さを教えてくれました。ヤスミンも優しいお姉ちゃんでした。住んでいるところはアフォルテン・アム・アルビスというところで、学校の友達もたくさん住んでいたのでも私はとても気に入りました。もしまたスイスに住むとしたら、ここに住みたいと思います。

ここでご紹介した家族は、どの家族も個性があり多くのことを学ぶことができました。素晴らしい経験をさせて頂いた家族にとっても感謝しています。

次に学校の紹介をします。私が通っていたのはチューリッヒのメイン通りまで3分という、都会にあるカン

トン シューレ エンゲと呼ばれる公立の高校でした。この高校は町にも湖にも5分以内で行ける便利な所にあり、お昼ご飯をいつも町に買いに行き、湖で食べたりしました。学校はとても近代的なつくりで、自分たちの教室が特にならない移動方式でした。その中で私は「経済と法」を専門に学ぶ「普通科」のクラスに入りました。他にも語学を専門に学ぶコースと就職するコースがありました。クラスは男の子13人、女の子9人の計22人でした。スイスでは1クラス20人が基本だそうです。このクラスは、私の学校生活を支えてくれた最高のクラスです。学校に入りたての頃はシステムも分からない、言葉も全然しゃべれなかった私に身振り手振りで一生懸命に教えてくれました。

初めの頃は英語のコミュニケーションでした。3カ月経つとドイツ語にも慣れてきたのですが、スイスではスイスドイツ語を話すので、授業中と普段の言葉が全く違って戸惑いました。学校の友人は、日本のことを調べて「これは本当なのか？」などとよく聞かれました。特に宗教のことや歴史のことをきかされると答えられないことがたくさんありました。その時には、自分はまだ全然日本のことを知らないんだなあと思いました。

クラスメートとは毎日昼食を食べたり、週末は映画を見たり買い物をしたりしました。冬休みには友人2人と一緒に2週間スノーボードの学校にも行きました。私は全くの初心者だったので、4才～6才の子供と一緒にクラスで習いました。2週間経った頃には、レースに出るまでに上達しました。やればできることが分かりました。

次にロータリーについて紹介します。ロータリークラブの例会には5回出席しました。例会の内容は日本のように決まっておらず、おしゃべりして昼食を食べて解散という気さくな会でした。毎回、同じ質問で「スイスを旅行した?」「スイスの何処が好き?」などと聞かれました。クラブ会員は60名位で、そのうち20名位は女性でした。世界各国から来た交換留学生とも仲良くなりました。

初めの頃はドイツ語の語学教室があり、学校が始まるまで毎日4時間一生けんめいに勉強しました。授業は英語とスペイン語で行われていたので、辛かったです。また、文化交流会を開いて日本の歴史や文化を紹介したり、マッターホルンにも旅行しました。5月末には2週間、ロータリーのヨーロッパツアーがありました。ツアーではドイツ、オーストリア、チェコ、イタリアに行きました。どの国も楽しかったのですが、特にオーストリアはウィーンの町全体に彫刻やお城がたくさんあって、とても芸術的で感動しました。イタリアのトスカナ地方の海もきれいで、1日で真っ黒に日焼けしてしまいました。

この1年間のスイス留学で、世界にはいろんな文化や生活や価値観があるんだなと実感しました。そして、私は日本人でありながら、まだ全然日本のことを知らないことを痛感しました。これからは、日本のことをもっと勉強して世界に日本の素晴らしさを発信できる人になりたいです。

最後にドイツ語でお礼を申し上げます。

Ich danke euch. Ich habe huera viel Spass gehabt  
in der Schweiz.

